

無自覚な一歩が“加害”になりえる——元公安警察、松丸俊彦氏の警鐘

「今、子どもを狙う“見えない凶器”とは」  
——SNS・通学路・無差別犯罪からどう守るか？

夏休みは、子どもが危険にさらされる機会が増える時期です。

登下校がなくなり、日中の行動範囲が広がる夏休み。子どもだけで出かける機会も増え、保護者の目が届きにくくなるこの時期は、毎年子どもを狙った事件や事故が増加しています。

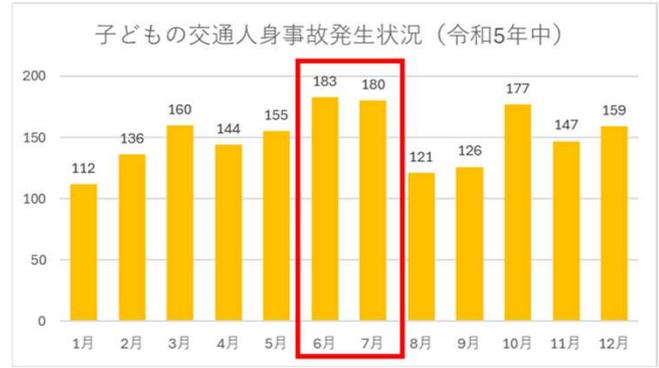
警視庁によると、令和5年は6月、7月と2か月連続で子どもの通学人身事故が多発しています。

さらにこども家庭庁では、こどもが夏休みに入る毎年7月を「青少年の被害・非行防止全国強調月間」とし、関係機関・団体と地域住民等が相互に協力・連携しながら、青少年の健全育成に関する様々な取組を集中的に実施しています。

[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/a6546e3b-4ff3-421f-b2aa-24a82f2efe6c/3ad33b98/20250611\\_policies\\_youth-kankyou\\_hikouhigai-gekkann\\_14.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/a6546e3b-4ff3-421f-b2aa-24a82f2efe6c/3ad33b98/20250611_policies_youth-kankyou_hikouhigai-gekkann_14.pdf)

今や「子どもが巻き込まれる」だけでなく「子どもが加害者になる」ケースも無視できません。

あなたのお子さんは、本当に安全と言えるでしょうか？  
今回は最新の事件や統計をもとに、Secualが考える**家庭でできる防犯対策**を紹介します。



警視庁「子供の通学人身事故発生状況（令和5年中）」をもとに作成

「標的になるリスク」と「火種になる現実」

ニュースで目にする凶悪事件や不慮の事故——それは決して他人事ではありません。

2025年5月、大阪市西成区で下校中の小学生7人が車にはねられ、重軽傷を負う事件が発生。容疑者は事前に複数の小学校周辺をうろついていたとされ、計画性が疑われています。

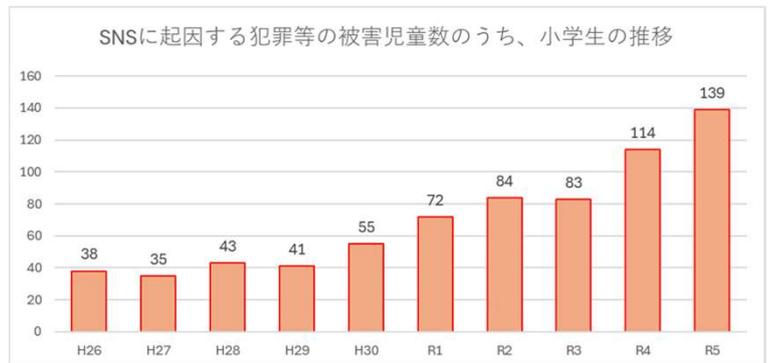
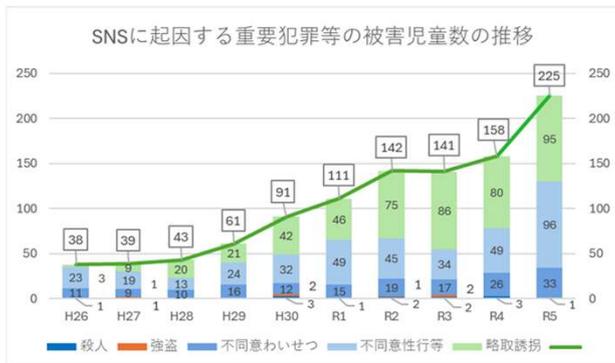
また2020年8月には、福岡市の商業施設で15歳の中学生が無差別に女性を襲い、命を奪う事件も起きました。  
こうした事件から見えてくるのは、「子どもが狙われる危険」と同時に、「子どもが加害者になる可能性」もあるという現実です。



子どもの“もうひとつの世界”—— SNS起点の犯罪にどう立ち向かうか

近年の共働き世帯の増加に伴い、スマートフォンを持つ小学生が増えたこともあり、SNSを通じて知り合った相手とのトラブルによる子どもの被害が急増しています。警察庁によると、特に小・中学生が性加害や金銭トラブルに巻き込まれるケースも報告されており、「親の知らないSNS利用」が背景にある場合も多く見られます。

左のグラフはSNSに起因する重要犯罪の被害児童数ですが、「不同意わいせつ」、「不同意性交等」など、性被害に遭う子供たちがここ数年で急増していることがわかります。なかでも右のグラフは、SNSに起因する被害児童のうち、小学生の推移を表したもので、平成26年に比べて3倍以上に増加しています。子供達の約4割はX（旧Twitter）で犯人と知り合い、被害に遭っています。



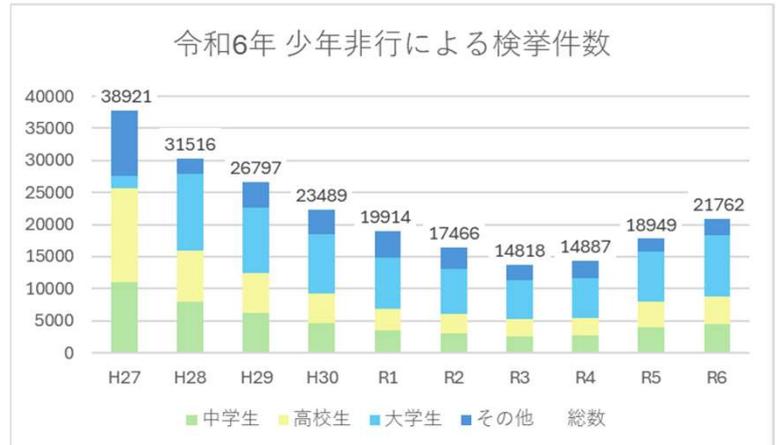
こども家庭庁「インターネット利用における子供の性被害等の防止について」をもとに作成

## 10代で人生が変わる——その一線を越えさせないために

右のグラフは令和6年における少年非行による検挙件数の推移です。

平成27年に発生した40,000弱の検挙数から令和3年までは学校や家庭での指導強化や都市部の防犯カメラ等による抑止効果で減少傾向でした。しかし、コロナ収束後の外出・行動の活発化やSNS・マッチングアプリ・闇バイトなどを介した新たな非行の拡大に伴い近年再増加の傾向にあります。

また、2022年4月の成人年齢の引き下げに合わせ、20歳未満の「少年」が事件を起こした場合などの処分や手続きを定めた少年法も改正されました。事件内容によっては、低年齢でも法的責任を問われる時代になってきています。



警察庁「令和6年における少年非行及び子どもの性被害の状況」をもとに作成

## 今日からできる！子どもを守る家庭のルール

日々のちょっとしたコミュニケーションで、我が子の変化を感じ取れる環境は作れます。一般的な防犯対策はもちろん、SNSを利用する上でのリスクもしっかり伝え、楽しく安全な生活が送れるよう見守りましょう。

## 【一般的な防犯対策】

✓ お出かけ時は“位置情報+連絡”をセットで

- ・定期連絡の時間をあらかじめ決めておく
- ・いざという時の対応がスムーズに

✓ 防犯ブザー&スマホの使い方にルールを

- ・緊急連絡先をスマホに登録
- ・SNS・通話は利用範囲を明確に

✓ 「ひとり時間」をできるだけ減らす

- ・在宅が難しいときは、祖父母や近隣と連携
- ・学童や地域の居場所も有効活用

✓ ホームセキュリティで自宅を可視化

- ・外出中でもアプリでお留守番の様子をチェック
- ・親の安心感アップ！

## 【SNSに潜むリスクとその対策】

✓ SNSのやり取り、親子で一緒に確認を

- ・「どんな人と何を話してるの？」を聞ける関係に
- ・時には画面を見ながら話す時間を

✓ ネット上の他人は“友達ではない”

- ・優しい言葉＝安心ではないと伝える
- ・実際の事件例も交えて注意喚起

✓ 顔写真・位置情報の投稿は要注意

- ・学校や自宅が特定される内容はNG
- ・投稿前に「これ出している？」の確認習慣を

✓ 「もしも」の対応を家族で決めておく

- ・知らない人に会う誘いが来たら？
- ・嫌なことがあったら誰に相談する？を事前共有



株式会社Secual 警備業顧問／防犯コンサルタント 松丸 俊彦

犯罪の「被害者」にならない為に、まずは信頼できる大人との関係構築。そして、SNSやインターネットのリスクおよび防犯に関する教育が必要です。

また、犯罪の「加害者」にならない為に、普段から善悪の区別ができる、他社への共感力が持てるよう育ててください。暴力や問題行動の兆候を見逃さないことも重要です。

子どもの変化に敏感になってください。急に口数が減った、様子が暗い、反抗的になったなどは、何か問題を抱えているサインかもしれません。

## 見守る力、問われる時代に

子どもを取り巻く社会環境は、今まさに急激に変化しています。

SNSの普及や人とのつながりの希薄化により、「誰が」「いつ」「どこで」「なぜ」巻き込まれるのか、予測が難しい時代になりました。

「まさかうちの子が…」という思い込みを捨て、正しい知識とツールで“守れる家族”になるために。学校や友人、SNSでの出来事を日頃から共有する習慣をつけることで、異変の早期発見につなげましょう。

——Secualは、これからも家族の安心を見守るサービスと情報をお届けしてまいります。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

株式会社Secual 事業戦略室 広報/PR担当：大野  
TEL：080-3728-7459 Mail：pr@secual-inc.com